



士別ロータリークラブ会報

創立1960・3・24 RI第2500地区

vol. 23 No.2497

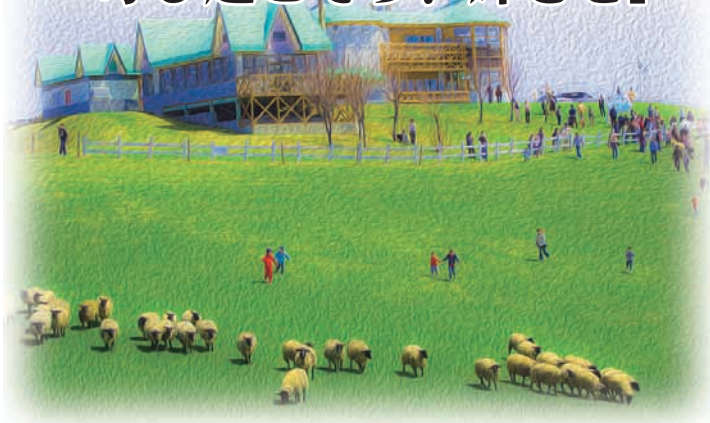
2014～2015年度 国際ロータリーテーマ



2014～2015年度RI会長 ゲイリーC. K. ホアン

2014～2015年度士別ロータリーのスローガン

「呼び起こそう、輝きを」



- 例会場／士別グランドホテル
- 例会日／毎週月曜日 12:10～13:10
- 事務所／士別グランドホテル TEL:(0165)23-1234
- 会長／宮崎 隆雄 ■副会長／北村 浩史
- 幹事／坂口 芳一

今日のプログラム 第2578回例会 2015年2月9日(月)…〈普通例会〉

■2月2日の記録■ 普通例会

- 司 会 佐藤元信 会場監督
- 齊 唱 奉仕の理想
- 本日の出席 会員45名中 出席者35名 出席率77.77%
- 本日の欠席 相山佳則、國森和磨、黒田康敬、近藤峯世、坂野虎溪、佐藤元保、汐川泰晴、佐藤和彦、深尾幸夫、渡辺正一
- メイクアップ
- ゲスト
- ニコニコBOX 江端健之・山本俊一・若森 孝(2月誕生日記念として)

累計248,000円

例会予定

■2月の予定……《世界理解月間》

- 2月2日(月)／例会・理事会
- 2月9日(月)／例会
- 2月16日(月)／例会
- 2月23日(月)／夜間例会

■3月の予定……《識字率向上月間》

- 3月2日(月)／例会・理事会
- 3月9日(月)／例会
- 3月16日(月)／例会
- 3月23日(月)／夜間例会
- 3月30日(月)／特別休会

■会務報告宮崎隆雄会長

●今月は世界理解月間です。今現在も世界の一部地域では紛争が勃発しており、とりわけ中東地域では日本人が紛争に巻き込まれ犠牲になると言う耐え難い状況が続いております。ロータリーの例会の場ですのでその詳細及び意見は差し控えたいと思いますが、ロータリーのホームページ内には、次の様が記事が掲載されていますのでご紹介したいと思います。

タイトルは、「イスラエルとパレスチナの学生が、互いの肖像画を描きながら、平和について考える」

これは、12年前にシカゴで始まったHands of Peaceプログラムにおける取り組みの一つです。毎年、両地域の学生とさまざまな宗教的背景をもつ学生が集まって、平和を築くための対話とチームビルディングに取り組みます。参加者である10代の若者たちは、専門家による進行のもと、中東情勢の情報を得ながら、文化と宗教の多様性を学びます。プログラムの目標は、学んだことを生かして、日常生活や地域社会で平和構築に取り組んでもらうことです。一緒に腰を下ろして絵を描きあうことで、「多くの共通点を発見し、同じ人間だということが分かってくる」と、プログラム実行者の一人、ケリー・メロスさん（米国カリフォルニア州、Encinitas Coastalロータリークラブ会員）は話します。メロスさんは、2年前からプログラムに関与するようになり、その後、アートの力に注目したワークショップを開始しました。絵を描く際には、大まかなイメージと輪郭に注意するよう学生にアドバイスするというメロスさん。こうすることで、全体の美しさを感じ取り、モチーフとなる相手の細部にこだわることなく、やがてはイスラエルとパレスチナという枠組みを越えて、一人の人間として相手を理解できるようになると話します。プログラム期間中、参加者はロータリー会員を含むホストファミリーの家に滞在。会員は、地域フォーラムやセミナーでボランティアを担い、その他の平和推進イベントにも積極的に参加するほか、資金サポートも行っています。また、高校生のロクサーヌさんは、米国からの学生としてプログラムに参加しました。しかし、プログラム開催のさなかに、イスラエル陸上部隊によるガザ侵攻の知らせが届きました。参加者同士の争いや仲間割れが起きるのではないか。もう対話は不可能なのではないか。彼女はそう思ったそうです。そのとき、イスラエル人の女子学生が

立ち上がると、何も言わずにしばしの間、頭を下げました。すると全員が立ち上がり、あとは皆で、ただただ涙を流すばかりでした。互いに抱きあい、みんなが一つになれたのはあの日だったと、ロクサーヌさんは振り返ります。「対立グループの者同士の友情が芽生え、すべてを超越できた、信じられないような瞬間でした」と、掲載されています。一部の扇動者に振り回される事無く、こう言った草の根的な行動を根気よく続け、次の世代を担う若者の育成を続ける行動は、世界中で組織されているロータリーだからこそ実現できるプログラムです。ロータリアンである事を誇りに世の中の平和の為常に取り組んでいかなければならないと思います。

■幹事報告坂口芳一幹事

●今日の例会終了後、理事会を当ホテル2階にて開催致しますので、役員・理事の方は出席をお願い致します。

■委員会報告

●プログラム委員会谷 温恵委員長

今後のゲスト卓話として士別市役所環境生活課士別地区広域消費生活センターの野村ゆう子様を2月9日、3月2日に保健福祉部健康長寿推進室士別市地域包括支援センターの米谷ゆう子様の2名をお招きする予定となっております。尚、2月と3月は本日を始め貴重な会員卓話もお願いしておりますので、皆様ご期待下さい。

本日は入会間もないところではありますが、大橋会員によります新入会員卓話となっております。どうぞ宜しくお願い致します。

■新入会員卓話大橋直幸会員



先週盛大に歓迎会を開いて頂きましたことをこの場をお借り致しまして厚くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。皆様の温かい心を肌で感じ取って、私も程よく肩の力を抜いて頑張っていかなければならないという思いでございます。今後とも宜しくお願い致します。

私は昭和49年1月21日生まれで41歳になったばかりです。出身は剣淵町で剣淵小学校、中学校、士別商業高校に通っておりました。振り返ってみますと、ずっと野球しかやっていませんでした。小・中・高校と、当時は士別高校が強かったんですが、やはり練習量や技術的なこと、全てにおいて士高には絶対

負けないぞという思いでやっておりました。全道大会にも行けない弱小の野球部でしたが、そこで3年生の時にキャプテンをさせて頂きました。小・中学校とも剣淵は強かったんですがキャプテンを高校3年生の時に1年間やったということが、今振り返っても非常に大きな経験であり、礎となったのかなと未だに覚えております。高校を無事卒業することになり、市内の小林自動車さんに1年半くらいお世話になっておりました。小林一雄さん、専務の満雄さんには本当にお世話になりながら、高卒で車が好きなものだからとあえず整備工になってみようということで20歳位までお世話になっておりました。手先が不器用で当時18、19歳の頃は寝ないで遊んでばかりで、整備をしていても眠くなったりして社長や専務にはご迷惑をお掛けしたのを覚えております。20歳から27歳まで有野産業さんにお世話になっておりました。ユンボのオペレーターで入ってユンボを3年、砂利プラントでタイヤショベルを1年、あとは4トンダンプ等で各土建屋さんに配達に行ったりしていました。最後はユンボで1人で盛りきりも出来るようになり、そこそこいけたのではないかと思います。冬は除雪活動、ロータリー、グレーダー、タイヤショベルとかの重機のオペレーターをしておりました。27歳になった時に今の会社に入った訳であります。当時を振り返りますと、通常だと言葉が悪いですが先輩の力を借りてコネやツテでお願いをするのが筋だったかと思えますけど、右も左もわからない馬鹿な男でしたから、電話も何もしないでいきなり3丁目のお店に行って、「すいません使って下さい」と言いました。今考えても馬鹿だったなあと思えますが、奥さんにこういう仕事をしたいという熱意を伝えたら、そこでハードルを上げられたんですね。「うちの会社はバスに乗るから大型2種なかったら使えませんから」と言われて門前払いをされたました。運転には自信があったので、すぐに旭川の自学に通って2種を取ろうと1週間半で取って帰ってきて、奥さんに「取ってきました」と免許証を見せたら、ビックリされた顔をしてそれから会長に後日会って頂いてなんとか使って頂いて今に至っている現状です。その中で、私のささやかな自慢といえますか、これはなかなか出来ないだろうということは辞めた会社の人達とも未だに少なからず係らせて頂いております。今まで出会った方々、知り合った方々のご縁だと思って親しく未だに付き合いさせて頂いております。全てにおいて皆さんと仲良くお付き合いをさせて頂いているというのが私の長所でもあるのかなと思います。分析していきますと

私の短所ですが、若さとかではなく短ばらな性格なのかなというところがまだまだ残っております。ロータリークラブに入会させて頂いたということで皆さんからご指導を頂きたいと思えます。

私の父は、昭和10年生まれの福島県伊達郡保原町の出身で、北海道に16歳の時に単身で渡って来ました。父は剣淵町の吉田木工場に入っていて、そこで10区から学校に通っていた母に出会って結婚して、20歳の時から杉浦建設さんに大工としてずっと働いていました。大工として50年勤続表彰をもらって、高いところはもう登れないということで土木の方におろしてもらい、今80歳近いんですが人がいなくなったら現場で旗振りとかをしているというような親父であります。母親は剣淵町の金村クリーニングでずっと働いておりました。今は6年前位に士別に引っ越してきておられます。3人兄弟の3男でありまして、長男は事務機の大橋、個人でやっている事務機屋で、泉谷さんにも20年程お世話になっておりました。真ん中の三つ上の兄は剣淵で酪農を経営しております。酪農というのも奥さんにもらって頂いた同級生の実家が酪農を経営されていたので、そこを継ぐという感じになっておられます。今一番幸せなのは、兄弟がすぐ側にいて親がすぐ側にいる、これは親には最高に嬉しいし親孝行でありがたいというんですが、子供も一緒に一緒に同居はしていませんが、親がいつでも見にこれる距離にいるということは、この上ない幸せでございます。そして私の家内の両親も日甜の近くに住んでいて健在でありますので、4人の父さん母さんにはまだまだ3男坊の甘えっ子と立場を生かして、甘えながら日々すねをかじりながらこの士別で生活をさせて頂いております。これで私のご紹介とさせて頂きます。今後共宜しくお願い致します。

■ 2月の誕生祝い



山本俊一、江端健之、若森 孝、黒田康敬、

4名の会員が今月誕生日を迎えます。
おめでとうございます。